

第二十五回 帝國議會 貴族院議事速記録第八號

明治四十二年二月二十二日(月曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第八號 明治四十二年二月二十二日

午前十時開議

- | | | |
|----|---|------|
| 第一 | 橋本雄造君請暇ノ件 | 第一讀會 |
| 第二 | 帝國鐵道會計法案 <small>(政府提出案)</small> | 第一讀會 |
| 第三 | 印紙犯罪處罰法案 <small>(政府提出案)</small> | 第一讀會 |
| 第四 | 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案 <small>(衆議院提出)</small> | 第一讀會 |
| 第五 | 建物保護ニ關スル法律案 <small>(衆議院提出)</small> | 第一讀會 |
| 第六 | 教育基金ニ關スル建議案 <small>(侯爵黑田長成君外十名提出)</small> | 會 議 |
| 第七 | 利根川水害豫防工事速成ニ關スル請願 | 會 議 |
| 第八 | 宮津福知山間鐵道急設ノ請願 | 會 議 |
| 第九 | 利根川水害豫防工事速成ニ關スル請願 | 會 議 |
| 第十 | 宮津商港ニ達スル鐵道延長線急設ノ請願 | 會 議 |

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔河井書記官朗讀〕

去ル十七日本院ニ於テ議決シタル政府提出臺灣銀行ニ於テ發行シタル一圓銀貨ヲ以テ引換フヘキ銀行券ノ引換期限ニ關スル法律案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル鐵道速成ニ關スル請願及外三件ノ請願ハ各意見書ヲ付シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日議員侯爵黑田長成君外十名ヨリ百五十五名ノ賛成ヲ以テ教育基金ニ關スル建議案ヲ提出セリ

同日印紙犯罪處罰法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵德川 達孝君 副委員長 富井 政章君

貴族院議事速記録第八號 明治四十二年二月二十二日 議長ノ報告

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

印紙犯罪處罰法案可決報告書

請願委員會特別報告第二號

去ル十八日衆議院ヨリ政府提出帝國鐵道會計法案ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案

建物保護ニ關スル法律案

同日委員長ヨリ請願文書表第四回報告書ヲ提出セリ

去ル十九日豫算委員會ニ於テ分科擔當委員ノ兼務ヲ左ノ如ク決定シタリ

第一分科兼務 伯爵柳澤 保惠君 第一分科兼務 淺田 德則君

第三分科兼務 男爵若王子文健君 第四分科兼務 下村辰右衛門君

第五分科兼務 南郷 茂光君

去ル二十日政府ヨリ明治四十年四月一日ヨリ同四十一年三月三十一日ニ至

ル各省所管官有財産増減異動報告書ヲ受領セリ

同日議員三浦安君ヨリ三十名ノ賛成ヲ以テ族稱ノ記載ニ關スル法律案ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

未成年者飲酒禁止法案

民事訴訟法施行條例中改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、橋

本雄造君請暇ノ件、是ハ病氣ニ付キ十二日間ノ請暇デアリマス、許可ヲ致シ

テ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二、帝國鐵道會計法案、政府提出、衆

議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

帝國鐵道會計法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

議員請暇ノ件 帝國鐵道會計法案 第一讀會 五九

候也

明治四十二年二月十八日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長 公爵 德川家達 殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

〔小字ハ衆議院ノ修正——ハ同削除ノ符號〕

帝國鐵道會計法

第一條 帝國鐵道ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ帝國鐵道資本及帝國鐵道用品資金並將來投資スル金額ヲ以テ資本ト爲シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テ特別會計ヲ設置ス

第二條 帝國鐵道ノ建設及改良ニ要スル經費ハ鐵道益金ヲ以テ之ニ充ツ但シ鐵道益金不足ノ場合ニ於テ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ他ノ特別會計其ノ他ヨリ借入金ヲ爲スコトヲ得

第三條 本會計ノ負擔ニ屬スル公債又ハ借入金ノ整理又ハ償還ノ爲政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ他ノ特別會計其ノ他ヨリ借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 帝國鐵道ノ事業ヲ經營スルニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債又ハ其ノ整理若ハ償還ノ爲發行シ若ハ發行スル公債、前二條ニ依ル公債又ハ借入金並鐵道國有法ニ依リ發行シタル公債又ハ政府ノ負擔ニ歸シタル債務ニシテ其ノ償還ヲ終ラサルモノハ本會計ノ負擔トシ毎年度其ノ償還及利子仕拂ニ必要ナル金額ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲ス場合ニ於ケル諸費ニ付テモ亦同シ

第五條 本會計ハ之ヲ資本勘定收益勘定及積立金勘定ニ區分ス

第六條 資本勘定ハ鐵道益金ヨリ繰入ルル金額公債募集金及借入金並所屬財産ノ賣拂代金鐵道用品收入及工作收入其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ鐵道ノ建設及改良費負債償還金鐵道用品費及工作費其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第七條 收益勘定ハ鐵道營業上ノ諸收入資本所屬物件ノ貸付料及預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ鐵道營業上ノ諸費用資本所屬物件ノ維持修理及補充費並負債ニ對スル利子其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

トス
鐵道及軌道ニ關スル監督上ノ諸費用ハ本會計ノ負擔トシ收益勘定ノ歲出トス

第八條 收益勘定ニ於テ歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ヲ益金トシ積立金勘定ニ繰入ルヘキ金額ヲ控除シタル殘額ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第九條 積立金勘定ハ鐵道益金ヨリ繰入ルル金額ヲ以テ其ノ歲入トシ他勘定ニ於ケル災害事變其ノ他豫期セサル歲入歲出ノ不足ニ對シ補填スル金額ヲ以テ其ノ歲出トス

前項繰入金ハ毎年度鐵道益金ノ一割以內トス

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第十一條 資本勘定及積立金勘定ニ屬スル資金ニシテ年度内ニ使用セサルモノハ各勘定ニ於テ遞次翌年度ニ繰越スヘシ

資本勘定ニ屬スル毎年度豫算殘額ハ事業ノ完成ニ至ル迄順次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第十二條 本會計ニ於テ仕拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一般會計他ノ特別會計其ノ他ヨリ一時借入金ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

本會計ノ各勘定ニ於テハ相互間資金ノ繰替ヲ爲スコトヲ得

一時借入金融通證券ニ依ル資金及繰替金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ
第十三條 本會計ニ於テ仕拂上ノ餘裕金アルトキハ預金部ニ預入レ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得

前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第十四條 本會計所屬出納官吏ノ保管スル現金ニシテ金庫ニ委託サレタルモノニ付テハ相當ノ利子ヲ徴シテ日本銀行又ハ其ノ代理店ニ預ケ入ルルコトヲ得

本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ

第十五條 本法ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法ニ依リ本會計ニ於テ借入金ヲ要スル場合ニ一般會計各特別會計ハ其ノ資金ニ餘裕アルトキハ之ニ對シ貸付ヲ爲スコトヲ得

附則

第十七條 本法ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國鐵道會計法及帝國鐵道用品資金會計法ハ之ヲ廢止ス但シ明治四十一年度分及韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十八條 鐵道敷設法北海道鐵道敷設法及事業公債條例ノ規定ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ之ヲ廢止ス

第十九條 本法施行前ニ於ケル帝國鐵道特別會計及帝國鐵道用品資金特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ニ繰越スヘシ

本法施行前ニ於テ帝國鐵道特別會計ニ對シ一般會計ヨリ繰入ルヘキ資金ニシテ之カ繰入ヲ終ラサルモノハ之ヲ本會計ニ繰入ルヘシ

〔國務大臣侯爵桂太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵桂太郎君) 諸君、唯今議題ニ相成リマシタ帝國鐵道特別會計法案ニ付キマシテ一言、政府ノ所信ヲ申述ベテ置キマスノハ必要デアラウト考ヘマス、此鐵道特別會計法案ハ曩ニ鐵道ガ國有トナリマシテ御承知ノ如ク既ニ此鐵道業務ニ付キマシテハ政府ガ之ヲ統一イタシマシテ從事イタシテ居リ譯デゴザリマス、然ルニ此會計法ハ以前ハ全ク一般會計ヨリシテ鐵道ノ改良及建設ニ係リマスル所ノ資金ヲ供給ヲ致シテ居リマシタナレドモ、將來此改善……改良竝ニ建設ノ事業ヲ進行ヲ致シテ參リマスル上ニ付キマシテハ、第一、資金ノ供給ノ上ニ於キマシテモ、又其業務ノ上ニ於キマシテモ、最モ之ヲシテ獨立セシムルノ必要ヲ政府ニ於テ感ジマシタ次第デゴザリマス、故ニ全ク此會計ヲ一般會計ヨリ引キ離シマシテ將來建設改良ノ事業ヲナシ、竝ニ其鐵道業務ヲ容易ナラシムル爲ニ必要ト認メマシタ故ニ提出ヲ致シタ次第デゴザリマス、ドウカ右ノ次第二ゴザリマスル故ニ、諸君ノ御協賛ヲ經マシテ速ニ此案ノ成立スルコトヲ希望イタシマスル、又衆議院ニ於キマシテ案ノ修正モゴザリマシタガ、是ハ全ク其事柄ヲ明カニシテ置ク爲ノ修正デゴザイマシタカラシテ同意ヲ致シマシタ次第デゴザリマスルカラシテ、此邊モ一應序デニ申上ゲ置キマスル

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三ニ移リマス、印紙犯罪處罰法案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

印紙犯罪處罰法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年二月十七日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 印紙犯罪處罰法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道申上ダマス、此委員會ハ本月ノ十七日ニ開キマシテ、午前カラ午後ニ續キマシテ鄭重ニ審議ヲ致シマシタ、政府委員ニ本案ノ提出ノ理由ヲ説明ヲ請ヒマシタ、竝ニ質問ガ種々ゴザイマシタガ、是ハ既ニ速記録ニ載ツテ居リマスカラシテ、諸君ハ御承知ノコト、存ジマスルカラシテ、茲デ喋々申スコトハ餘リ長クナリナリマスルカラ省イテ置キマス、併シ政府委員ガ本案ノ提出ノ理由ニ付イテ申サレル所ノ大要ヲ申述ベマスレバ、舊刑法ニハ印紙ニ對スル犯罪ノ處罰ノコトモ載ツテ居リマシタガ、新刑法ニハ特別法ヲ以テ規定スルト云フ精神ヲ以テ省イテゴザイマシタ、然ルニ其當時ニハ特別法ガマダ出來マセズデ、刑法施行法ヲ以テ舊ノ儘ヲ行ツテ居ッタ、然ルニ此度特別法ヲ作ルニ付イテ本案ヲ提出シタト云フ譯デアリマス、其他委員カラ色々質問モゴザイマシタガ、結局審議ノ末本案ハ必要ト認メマシテ全會一致ヲ以テ可決ニ相成ッタ次第デゴザイマス、此段ヲ御報告ニ及ビマス

〔伯爵德川達孝君演壇ヲ降り發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 德川伯爵ハ何デスカ

○伯爵德川達孝君 本案ハ簡單ナル案デゴザイマスルカラ、讀會省略ヲ以テ直チニ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵萬里小路通房君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○伯爵大木遠吉君 賛成

○伯爵柳原義光君 賛成

○男爵松平正直君 賛成

○田邊輝實君 賛成

○伊澤修二君 賛成

○子爵本莊壽巨君 賛成

○男爵中川與長君 賛成

○子爵板倉勝達君 賛成

○石井省一郎君 賛成

○男爵本多副元君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 德川伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアツタト認メマス、德川伯爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者

多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 原案ニ對シテ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第四、渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治四十二年二月十八日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中左ノ通改正ス
第一條中「田畑」ノ下ニ「宅地山林原野沼池」ヲ加フ

〔政府委員櫻井鐵太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 唯今御審議ニナリマスル法律案ハ、是マデ一兩回衆議院ヨリ提出ニナリマシタ所ノ案デゴザイマス、其際政府ノ意志ハ同意イタスコトハ出來スト云フ理由ヲ申述ベテアリマスルガ、今回モ亦同様ナル理由ヲ以テ政府ハ反對デアルト云フコトヲ申ス次第デゴザイマス、其理由ハ渡良瀬川ノ沿岸ノ田畑ガ鑛毒ノ爲ニ害ヲ受ケマシテ、土質ガ惡變イタシタト云フコトヲ以テ地價ノ修正ハ數年前ニ適當ニ最早結了イタシタモノデアリマス、當時宅地山林原野池沼ト云フモノニ付イテモ、政府ハ鑛毒調査會ノ調査

ニ基キマシテ、慎重ナル調査ヲ致シマシタケレドモ、是等ノ土地ハ銅分ノ爲ニ土質ヲ惡變イタシマシテ、ドウシテモ地價ヲ修正シナケレバ救済ノ途ガ無イト云フ必要ヲ認メマセヌ故ニ、當時修正ヲ致サナカッタノデアリマス、ソレ故ニ唯今申述ベマスル理由ヲ以テマシテ本案ニ對シテハ政府ハ反對ノ意見ヲ持ツテ居リマス、尙ホ一言御參考ニ申上ゲマスルガ、本案ハ前回ノ議會ニ於キマシテモ當院ノ御審議ニ掛リマシテ當時否決サレテ居リマスルコトヲ簡單ニ御參考マデニ申上ゲマス

○伯爵柳原義光君 質問ガゴザイマスガ、政府委員ニ質問ヲ致シタイノハ、是ハ我々ガ常識デ考ヘテ見テモ、田畑トソレカラ宅地山林原野池沼ト云フモノノ被害ノ程度ガ違フト云フコトハ確ニ分リマスケレドモ、併シ山林原野池沼ト雖モ全ク生産物ガ無イト云フコトハナカラウト思ヒマス、ソレハ一向構ハナクテ、サウシテ田畑、畑トカ田地ハ被害ガ多イカラハ修正ヲシタケレドモ山林原野池沼ノ如キハ構ハスト云フコトハ、ソレハ程度ニ幾分ノ違ヒハアルガラウト云フコトハ確ニ認メルノデアルケレドモ、沼池ト雖モ山林ト雖モ原野ト雖モ全然、生産物ノ無イト云フコトハナカラウト思ヒマスガ、其鑛毒調査會ト云フモノ、結果ニ依ツテハ其必要ハ無イト云フコトニナツタト云フコトデアリマスケレドモ、少シクハ了解出來マセヌガ、分ルヤウニ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

〔政府委員櫻井鐵太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 唯今ノ御尋ネニ御答ヘ申シマス、御尋ネノ通り山林原野池沼ニモ多少ノ銅分ノ害ナルモノハアルニ相違ナイノデアリマス、併シ御承知ノ通り銅分ガ土壤ニ這入ツテ作物ヲ害スルト云フコトハ重モニ其表面ノ土ニ依ツテ生長シテ居ル所ノ農作物ガ主ナル害ヲ受ケルノデアリマス、山林ト申シマスレバ比較的土中ニ深ク根ヲ下ロシテ居ル所ノ木ガ立ツテ居ル所デアリマスルカラ被害ハ輕微デアル、故ニ地價ヲ修正マデシテ此救済ヲセネバナラヌ理由ハ無イ、斯ウ云フコトヲ以テマシテ鑛毒調査會ハ是等ノ山林原野等ノ土地ノ修正ヲ必要ト認メナカッタ次第デアルノデ、左様御承知ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 別段他ニ御質問モ無イト認メマスカラ議事日程第五ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五、建物保護ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

建物保護ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十二年二月十八日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

建物カ地上權又ハ土地ノ賃借借ノ期間滿了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權ノ存續期間ハ二十年ヲ下ルコトヲ得ス若之ヨリ短キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ二十年ニ伸長ス

建物ノ所有ヲ目的トスル土地ノ賃借借カ其ノ期間ノ滿了ニ因リ終了スル場合ニ於テハ賃借人ハ建物ノ存續スル場合ニ限リ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得更新シタル期間ノ滿了ニ因リ賃借借ノ終了スル場合亦同シ前項ノ期間ハ通シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若契約ノ當時定マリタル建物ノ構造又ハ用方ニ因リ之ヨリ短キ期間ヲ相當トスル場合ハ其ノ期間ニ依ル

第三條 當事者カ建物ノ所有ヲ目的トスル土地ノ賃借借ノ期間ヲ定メサリシトキハ其ノ賃借借ハ建物ノ朽廢スヘキトキニ終了ス但シ民法第六百四條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ民法第六百十七條第一項ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

第四條 民法第五百六十六條第一項第三項及第五百七十一條ノ規定ハ第一

條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス買主カ契約ノ當時知ラサリシ地上權又ハ賃借權ノ效力ノ存スル場合亦同シ

附則

本法ハ本法施行前ノ設定行爲又ハ契約ニ因ル地上權又ハ土地ノ賃借借ニモ之ヲ適用ス

〔谷新助君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 今、政府委員ガ發言ヲ求メラレマシタ

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 本案ハ衆議院送付ノ案デゴザイマスルガ、之ニ付キマシテ一應衆議院ニ於ケル經過ヲ申上ゲテ置キタイ、本案提出ノ理由ハ建物ヲ保護スルコト云フコトガ目的デゴザリマシテ、御承知ノ如ク現今地上權又ハ賃借權ニ依リマシテ、他人ノ地所ノ上ニ建物ヲ建ッテ居リマスル者ハ澤山アルノデゴザリマスルガ、然ルニ其借地ノ年限ガ甚ダ短期デゴザリマスル爲ニ往々ニ致シマシテ地主ヨリ期限ニ至リマシテ立退ヲ請求セラレマシテ、堅牢ナル建物ヲ取壊ツコトノ已ムヲ得ザルニ至ルコトガ往々デゴザリマスルノデ又相當ノ年限ヲ約シテ置キマシテモ賣買等ニ依リマシテ地主ガ變リマスル爲ニ其借地權ノ對抗ガ出來ナクナル、其爲ニ同様ノ結果ヲ生ジマスコトモ、ゴザリマスルノデゴザリマス、是等ノ弊ヲ矯正シタイト云フノガ本案ヲ提出ニナリマシタ趣意デゴザリマス、此趣旨ニ對シマシテハ政府ニ於テ同意ヲ表シタノデゴザリマス、サリナガラ此法律ヲ制定イタシマスル爲ニ地主ニ非常ナ迷惑ガ掛ルト云フヤウナコトニナリマシテハ相成リマセヌカラシテ、此建物ヲ保護スルト同時ニ、地主ノ利益モ慮リ、又民法ノ規定トノ調和ヲ計ルコトモ必要デゴザリマスルカラシテ、是等ノ點ニ付キマシテハ政府ノ所見モ十分ニ述べマシテ、之ヲ斟酌シテ本案ノ如ク議決セラル、ニ至リマシタノデゴザイマス、大體ノ經過ヲ一言申上ゲテ置キマス

○谷新助君 チョット政府委員ニ御伺ヒ致シマスル、此地震賣買問題ハ隨分同情スベキコトデアリマスガ、此問題ノ中ニ借地料ノコトガ少シモ無イノデ、此紛議ノ生ズルト云フ原因ハ十中ノ七八ハ借地料カラ紛議ヲ生ジテ居リマス、斯ウ云フコトヲ未然ニ防ギマスノニハ、サウ云フ借地料ノコトハ無ウテモ差支ナイモノデゴザイマセウカ、御伺ヒ致シマス

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 唯今ノ御質問ノ御趣意ハ借地ノコトハ一向無イト云フ御尋ネノヤウニ承リマシタガ、此法案ニハ借地ノコトヲ重モニ規定シテアリマスルノデ、勿論借地ノ中ニハ種々ゴザリマスルガ、建物ヲ拵ヘマスル爲ニ地面ヲ借りマシタ場合ノ規定ヲ致シテ居リマス、詰リ建物ノ保護ト申シマスルガ、結局ハ矢張り借地人ノ保護ト云フコトニ相成ルノデアルト信ジテ居リマス

○澤原俊雄君 唯今ノ御尋ネハ借地料ノコト、思ヒマシタノデスガ……

〔谷新助君〕私ノ御尋ネハ借地料ノ……ト呼フ

○議長(公爵徳川家達君) 平沼政府委員ニ發言ヲ許シマシタ

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 唯今ハ少々御質問ヲ誤解イタシマシテ甚ダ恐縮デゴザイマス、借地料ノコトハ規定ガゴザリマセヌデゴザイマス、サリナガラ重モニ保護イタシタイト申シマスルノハ、途中デ建物ヲ取壊ッテ立退カナケレバナラスト云フコトガ最モ弊ノ多イ所デアル、借地料ヲ途中ニ於テ勝手ニ引上ゲラセラル、ト云フコトモ亦一ツノ弊デアルト云フ話モアッタノデゴザイマスル、併ナガラ借地料ノコトハ當事者間ノ契約ニ委シテ置クノガ至當デアラウ、借地料ノコトマデ法律ヲ以テ規定スルト云フコトハ、餘リニ過ギタコトニ相成ラウト云フ趣旨デ、借地料ノコトハ遂ニ規定ヲ見ザルニ至リマシタノデゴザイマス

○子爵谷干城君 チョット政府委員ニ御尋ネシマスガ、此借地料ニ少シモ制限セヌデ置クト、追出サウト思ヘバ高イ賃銀ヲ掛ケテ、ソレヲ承諾セニヤ追出スコトガ出來ルヤウニ思ハレル、マダ衆議院カラ回ッタモノヲ見ハシマセヌケレドモ、往々不當ナ借地料ヲ地主カラ言掛ケラレテ負擔ニ堪ヘナイ、ソレガ爲ニ困難スルモノガ多イヤウニ見エマスガ、其借地料ガ無制限ニナルト追出ス日ニハ高イ借地料ヲ持込デ、ソレニ承服セニヤ追出スコトガ出來ルト云フ譯ニナリハシマセヌカ、ソレヲチョット伺ヒマス

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 今日、俗ニ申シマスル地震賣買ト申シマスルノハ、詰リ地主ガ變リマシテ新シイ地主ガ借地料ヲ非常ニ高ク致ス、斯ウ云フノガ實例デゴザリマスルガ、此法案ニ依リマスト、新シイ地主ニ前ノ借地權ノ對抗ガ出來ルノデアリマスカラ、元ノ地主ト約束シテ居リマシタ借地料デ

新シイ地主ニ對抗ノ出來ルコトニナルノデアリマス、ソレデアリマスカラ俗ニ申シマス地震賣買ト云フ爲ニ借地料ヲ不當ナ引上ゲラセラル、ト云フ弊ハ此法案ニ據リマシテ杜絶ハ出來ルデアリマス

○田中芳男君 本員モ聊カ御尋ネ致シタウゴザイマス、二十年ト云フ年限ヲ切リマスノハ、從前ニアリマスル木造ノ家ダケノコトノヤウニ思ヒマスガ、例ヘバ石造デモ、煉瓦造デモ矢張り二十年ト、同ジヤウニ御取扱ヒニナルノデアリマスカ、ソレヨリ堅固ナモノニハ其外ニ取除ケデモ出來ル譯デアリマスカ、其邊ヲ伺ヒマス

〔政府委員平沼騏一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平沼騏一郎君) 唯今ノ御質問ニ御答ヘヲ致シマスルガ、賃借權ノ二十年ト申シマスルノハ、民法ニ據ッテ定メラレテ居リマス最高ノ限度デアリマスルノデ、假令石造デゴザイマシテモ、煉瓦造其他堅牢ノ家屋デゴザイマシテモ、此賃借權ニ據リマシテ建設ヲ致シマシタ場合ニハ二十年ヲ越エタルコトハ出來ナイノデアリマス、ソレデゴザイマスルカラ、若シ百年モ二百年モ續キマスヤウナ堅牢ナ建物ヲ建テマスニハ、地上權ニ據リマシテ建設イタス外ハ無イコトニナラウト思ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六ニ移リマス、教育基金ニ關スル建議案、侯爵黒田長成君外十名提出、會議

〔宮田書記官朗讀〕

教育基金ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十二年二月十七日

發議者

侯爵黒田 長成 伯爵徳川 達孝 伯爵大木 遠吉

男爵辻 新次 男爵松平 正直 男爵船越 衛

男爵西五辻 文仲 男爵南岩倉 具威 西村 亮吉

古市 公威 伊澤 修二

贊成者

公爵二條 基弘

外百五十四名

貴族院議長公爵德川家達殿

教育基金ニ關スル建議

教育基金一千万圓ハ明治三十七八年役ノ際該臨時事件費ニ流用セラレ今日ニ及フモ尙未タ填補セラレサルハ國民教育ノ爲將又其ノ普及發達ヲ圖ルカ爲大ニ遺憾トスル所政府ハ假令一時ニ之ヲ填補スル能ハサルモ適當ノ方法ヲ以テ年次ニ之ヲ蓄積シ又基金利子ニ當ル五十万圓ハ當初ノ如ク次年度ヨリ年々之ヲ支出セラレムコトヲ望ム仍テ茲ニ之ヲ建議ス

理由

教育基金ハ二十七八年役紀念トシテ清國ヨリ得タル償金ノ一部ヲ割キ明治三十二年之ヲ置キタルモノニテ爾來其ノ利子五十万圓ハ年々之ヲ北海道及府縣ニ配當セラレテ其ノ教育資金トナリ普通教育施設上ニ便益ヲ與ヘ其ノ普及發達ヲ促シタルノ效驗頗ル大ナリ今ヤ義務教育年限ノ延長ニ伴ヒ地方教育資金ノ必要ハ一層緊切ヲ加ヘタリ是レ此ノ建議案ヲ提出スル所以ナリ

〔侯爵黒田長成君演壇ニ登ル〕

○侯爵黒田長成君 是ヨリ本案ノ趣意ヲ説明イタシマシテ諸君ノ御賛成ヲ得タイト思ヒマス、之ニ付キマシテハ順序ト致シテ、基金ノ起リカラ、實施ノ情況、其變遷、ソレカラ目下ノ有様ヲ一ト通り申述べタイト思ヒマスカラ、暫ク御聽キヲ願ヒタイト思ヒマス、明治二十七年ニ隣國トノ關係ガ絶エマシテ、舉國一致シテ軍國ノ事ニ力ヲ盡シマシタ際ニモ、教育ニ關係ノアル人々ハ當時、忠君愛國ノ思想ヲ鼓舞イタシテ、出征軍人子弟モ特ニ其授業料ヲ免ジテ安心シテ就學ノ出來ルヤウニ致シタルデアリマス、其他種々ナ方法ヲ以テ補助モ致シタルノデ、ソレカラ一方ニハ出征軍人ニ後顧ノ憂ノ無イヤウニ致シ、軍人ノ遺族ナドヲ教養スルヤウナコトニ努メタルデアリマス、自身ニハ軍國ノ事ニ直接關カラナイデモ軍國ノ教育家トシテハ十分ニ力ヲ用キラレタル思ヒマス、ソレハ畢竟教育事業ハ國家ノ事業ノ中デモ最モ大切ナモノデアラウト云フ觀念カラ起ッタノデアラウト思ヒマス、ソレデ當時ノ有様ハ其通りデアリマシタガ、戰役ガ終リマシタ後ニハ當時ノ償金ノ一部ヲ割イテ教育費ニ充テナケレバナラヌト云フコトガ、當時ノ輿論トナッタノデアリマス、ソレデ各町村ノ自治團體ノ教育ニ關係ノアル人々ハ申スニ及バズ、

各地ノ有志者カラ文部大臣、大藏大臣或ハ總理大臣ニ請願若クハ建議ヲ致シタコトガ多クアルノデゴザイマス、其請願ノ概數ヲ申シマス、第九議會ニ於テハ請願書ガ六十三通、請願人ノ數ガ四百六十二名、第十議會ニ於テハ六十一通、一万二千六百二十二名、第十三議會ニ於テハ六通、百二十六名、斯ウ多數デアリマシタ、ソレハ畢竟戰捷ノ根本ハ國民教育ノ普及ト云フコトニ基クト云フ所カラ償金ノ費途ヲ定メマスルニモ其一部分ハ必ズ國民ノ教育費ニ分布シナケレバナラヌト云フ所カラ斯ウ云フコトニナッタノデアリマス、デ當時ハ貴族院モ衆議院モ其議ヲ容レタノデ、二十八年十二月ニハ故近衛公爵初メヨリシテ建議案ガ本院ニ提出ニナリマシタ、翌年コレガ可決セラレテ政府ヘ送付ニナリマシタ、ソレカラ三十二年二月ニ本員等ガ學政振張ニ關スル建議案ト申スモノヲ發議イタシマシタ、是ハ畢竟戰後ノ經營ハ他デハナイ、教育ガ國ノ基デアアルカラシテ、其發達ヲ圖ルノガ專一デアルト云フ所カラ此建議案ヲ發議イタシマシタ、所ガ三十二年、即チ同年ノ三月ノ法律第八十號ヲ以テ普通教育費ニ使用スル爲ニ、其基金トシテ償金ノ内一千万圓ヲ以テ教育基金ノ制ヲ設ケルコトニナリマシタ、且ツ別ニ市町村立小學校教育費國庫補助法ト云フモノモ公布セラレマシタ、斯クノ如ク教育基金ノ設置ハ國民ノ輿論ニ依ッテ起ッタモノデアリマシテ、二十七八年役ニ於テ戰捷ヲ得タノハ畢竟普通教育ノ効果ニ外ナラヌノデアリマスノデ、當時ノ文部大臣ガ此基金ヲ形容シテ國民教育ノ無形ノ記念碑デアルト言ハレタノデアリマス、又實ニ是ハ教育事業ニ對スル一種ノ論功行賞ト申シテモ宜カラウト思フノデアリマス、デ國家ガ當然爲スベキコトヲ爲シタモノト思ヒマス、ソレカラ三十七年ニ至リマシテ又モ東洋ノ平和ガ亂レマシタ、爲ニ此基金モ餘儀ナク應急支出トシテ流用サレルヤウニナリマシタ、此應急ノ支出ニ付イテハ餘儀ナイコトデ彼レ是レ申スコトデハ無論ナイト思ヒマス、併ナガラ一旦戰役ガ終ッタ以上ハ復舊スルコトハ當然デアリマスマイカト思ヒマス、デ此戰役モ從前ト同様ニ大勝利ニ歸シマシタルハ畢竟教育ノ結果デアリマス以上ハ、一日モ速ニ此基金ヲ填補シナケレバナナルマイト思ヒマス、申スマデモナク教育ノ事業ハ國家ノ政務ノ内デ最モ大切ノ事デアリマシテ、今日ノ如キ日進月歩ノ時勢ニ於テハ一日モ忽セニスベカラザルモノデアアル、デ歐米諸國ニ於テハ近年益々實業ヲ獎勵スルノミナラズ、此教育ノ普及ニ付イテハ全力ヲ盡シテ居ルヤウニ聞及ンデ居リマス、デ歐米各國ト共ニ是ハ我が國體ヲ維持シテ參ラウト云

フニハ、ドウシテモ此教育ヲ盛ニシナケレバナルマイト思ヒマス、其點カラ申セバ一千万圓ノ基金ト云フモノハ決シテ高價ノモノヲ拂フコトニハ當ラナイト思ヒマス、ソレデ次ニ此基金ノ實施ノ模様ニ付イテ數年ノ成績ヲ見マスルト、其效驗ハ誠ニ著シイモノデアリマス、デ此五十万圓ト云フモノハ學齡兒童ノ數ニ應ジマシテ、北海道及各府縣ニ配當ニナッテ居リマス、ソレデ公立小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充テマスル爲ニ市町村ニ配付シテ居ル、ソレカラ公立小學校ノ校地校舍ノ設備ニ充テル爲ニ北海道、沖繩縣及市町村制ヲ實施セザル地方ニ補助ヲ致シテ居リマス、ソレカラ此五十万圓ノ十分ノ三ト云フモノハ、其額ニ限ッテ公立小學校教育ノ獎勵、其他普通教育ニ關スル費用ニ充テ、居リマス、其外非常ナ變災等ニ依ッテ公立小學校ノ校地校舍等ガ甚シイ被害ノアリマシタトキニハ特別ニ配當ヲシテ市町村ニ對シテモ十分ナ貸付又ハ補助ヲ致ス、ソレハ校地校舍ノ復舊ニモ便益ヲ與ヘルヤウニナッテ居リマス、其結果ハドウ云フ成績ヲ生ジタカト申スト、第一ニ教育ニ關係スル者ガ一層勵ンデ參ルヤウニナッタノガ第一ノ結果デアリマス、從來ハ小學校ノ教員ハ位置ガ頗ル低イモノデアッテ、世間ノ待遇モ從ッテ薄カッタノデアリマスルカラ、希望者モ至ッテ少ナシ、從ッテ之ヲ補充スル途ニ非常ニ困難ヲ極メタノデアリマス、教育者即チ此小學校教員自身ニ於テモ俗ニ一時位置ヲ得ルト云フニ過ギナイ、機會ガアレバ他ニ轉ジヤウト云フ考ヲ持ッテ居ッタ、ソレデ此重要ナ教育機關ト云フモノニ重キヲ置カナイ傾キガアッタノデアリマス、然ルニ基金ガ設置セラレマシテヨリハ、是等教育家ハ自分ノ責任ノ輕カラザルコトヲ思ヒ、又世間ガ教育家ニ期待スル所ノモノモ亦甚ダ輕クナイト云フコトガ分ッテ來タモノデゴザイマスルカラ、其職ニ甘ンジテ何所マデモ此職ニ盡スト云フ風ヲ生ジテ參リマシタ、其爲ニ就學獎勵ノ方法ガ一般ニ普及スルヤウニナリマシタ、從來デモ督勵ノ方法ガアリマシタノガ、此際ヨリシテ市町村長學務委員小學校教員ナドハ力ヲ協セテ一層之ヲ厲行イタシテ、貧困ナ兒童ニ對シマシテハ各地ニ學童保護會其他種々ノ團體ノ組織ガ出來マシタ、是等ノ團體カラ學用品ヲ給シマシテ就學ノ目的ヲ達セシムルヤウニナリマシタ、中ニハ悉ク就學イタシテ居ルト云フヤウニ就學ノ實ヲ擧ゲテ居ル地方ガ少ナクナイヤウニナッタノデアリマス、ソレカラ次ニ就學兒童ノ殖エタコトガ著シイノデアリマス、學齡兒童就學ノ歩合ハ二十八年ヨリ三十二年マデ五箇年間毎年平均二人餘リヲ増シタノデアリマシタガ、三十二

年カラ三十七年マデノ五年ニ於テハ四人餘リヲ増スヤウニナリマシタ、殊ニ女子ノ就學ガ著シイモノデアリマシテ、二十八年カラ三十二年マデ就學シタ歩合ハ十五人餘リデアリマシタガ、三十二年カラ三十六年マデノ五年間デハ三十人以上ヲ増スヤウナコトニナリマシタ、ソレカラ小學校教員ノ數ガ著シク殖エタト云フ事實ガアリマス、是ハ統計ニ據ッテ明カデアリマスカラ、餘リクダ／＼シクハ述べマセスガ、要スルニ本科正教員ト云フモノガ准教員ヤ代用教員ヨリモ比較的多クナリマシタ、ソレカラ小學校ノ兒童ガ三十八年ニハ五百萬餘リデアッテ、三十二年ノ末ニ比シマスト尋常科デハ五十三萬以上、高等科デハ二十九萬以上ヲ増シタノデ、之ヲ百分比例デ換算シマスト高等科ノ方ノ増率ガ尋常科ヨリモ多イノデアリマス、是ハ普通教育ガ進シタト云フ證據ニナラウト思ヒマス、其外基金設置ノ爲ニ效驗ノアッタコトハ校舉ニ違ハナイト思ヒマス、詰リ國民一般ニ十分、向學心ヲ起シマシテ貧困者モ其子弟ヲ就業セシメナケレバ恥カシイト云フ程ニナッテ參リマシタ、ソレカラ今度ハ校地校舍ノ方ニ對シテハ基金ガ三十五年度カラ三十六年度、三十七年度アタリニ、……ソレカラ三十八年ニモ、三十九年度ニモ多額ノ貸出シヲ致シテ居リマス、市町村ノ今日財政ガ困難デアル際ニハ斯ノ如キ資金ヲ得ルコトハ地方學事ノ爲ニハ非常ナ效果ガアルノデアリマス、以上述べマシタヤウニ教育基金ハ我が教育界ニハ非常ナル效果ガアッタノデアリマスガ、一旦之ヲ軍資金ニ流用シテ今日マデ填補ヲ致サナイ、ノミナラズ從來五十万圓ヅ、支出シタモノヲ三十九年度カラハ二十五万圓ニ半減イタシタト云フコトデアリマス、ソレハ取リモ直サズ二十七八年ノ戰役ノ記念碑ヲ取壞ッタコトニ當ルノデ、且ツ三十七八年ノ戰役ニモ最モ功勞ノアッタ國民教育ノ功ヲ沒却スルコトニ當リマス、折角發展シツ、アル所ノ國民教育ノ前途ヲ妨害スルコトガ少ナクナイト思ヒマス、無形上カラ申セバ教育者ノ奮發心ヲ摧イテ一般ノ向學ノ氣風ニ非常ナ妨ゲヲ致シ、有形上カラ申スト學校ノ改善、設備ヲ維持スルコトガ出來ナイノデアリマス、デ先刻モ申シマシタ世界ノ大勢ニ逆ッテ退歩スル傾キニナッタト申シテモ仕方ハアルマイト思ヒマス、サウシテ戰役後ニ於ケル所ノ學齡兒童ノ就學ト云フモノハ、ドウシテモ殖エテ參リマス、且ツ年々兒童ノ増加ニ連レテ就學者ガ増加スルコトハ論ヲ俟チマセス、ソレデ義務教育年限ガ延長シタ爲ニ教員ノ養成補充、校舍校地ノ設備ト云フコトハ非常ニ今日ハ急ヲ要スル際デアリマス、ソレニ四十二年度カラハ又十五万圓ニ

減ジタト云フコトハ本員等ハ誠ニ遺憾ニ思フ次第デアリマス、現内閣ハ財政ノ整理ヲスルト云フコトデ、苦シイ財政ヲ以テ戦後ノ經營ニ努メラレテ居ルコトハ本員等ノ萬々諒察スル所デアリマスガ、財政多端ト云フ爲ニ此重要ナル費途ヲ減ズルト云フコトハ甚ダ取ラナイコト、思ヒマス、ソレデ政府ハ速ニ相當ノ方法ヲ設ケテ此基金ヲ填補セラレムコトヲ望ミマス同時ニ之ニ尙ホ其利子ニ相當スル五十万圓ト云フモノハ次年度カラ年々支出セラレムコトヲ希望イタスデアリマス、終リニ臨ミマシテ一言、市町村ノ經濟ト教育費ノ關係ヲ述べタイト思ヒマス、市町村ノ經濟ノ膨張スルコトハ明瞭ナ事實デ、此市町村ノ窮乏シテ居ル財政ノ内カラ支出シテ居ル教育費ヲ見マス、三十三年度ニハ二千万圓バカリデアリマシタガ、四十年年度ニハ四千万圓以上ニナリマシタ、ソコデ國庫ノ補助ハドウデアアルカト云フト、此市町村立小學校教育費、國庫補助法ニ依ル所ノ補助費百萬圓、目下ノ所デハ普通教育費ニ十五万圓、ソレト小學校教員退隱料法ニ依ル所ノ國庫ノ交付金ガアルニ過ギマセス、今市町村ノ負擔シテ居ル教育費ノ四千万圓餘ニ之ヲ比シマスルト二分八厘シカニ當リマセス、サウシテ今日市町村ノ負擔ト云フモノハ年々重キヲ加ヘルニモ拘ラズ市町村ハ其堪ヘ難キニ堪ヘテ校舍ノ設備ニモ巨額ノ支出ヲ致シテ居リマス、設備費ノ有様ハ三十三年度ニ於テハ全國ニ於テ六百万圓餘デアリマシタガ、四十年年度ニハ千万圓以上ニナリマシタ、是ハ一時ノ臨時費ニ過ギマセスケレドモ、校舍ノ増築ト云フコトニナレバ從ッテ多數ノ兒童ヲ收容シナケレバナラズ、教員モ殖エナケレバナラズ、其他種々ナ費用ヲ要スルノデアリマス、ソコデ市町村ハ已ム得ズ設備ノ爲ニ年々公債ヲ募ルニ短期借入金ヲ以テ致シテ居ッテ其金高モ四百萬圓以上ニナッテ居リマス、ソレハ四十年年度末ノ統計ニ依ルトサウナッテ居リマス、斯ノ如キ有様デ教育ノ發達ヲ望ムコトハ到底期シ難イコト、思ヒマス、ソレ故ニ本員ハ地方經濟ノ及バザル所ヲ補ヒ、教育事業ノ發達ヲ計リマスル共ニ教育ノ普及ヲ計畫スルト云フコトハ國家ノ責任デアリ、且ツ刻下ノ急務デアルト信ジマスルカラ、茲ニ此建議案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス

○男爵小澤武雄君 本員ハ此建議案ヲ九名ノ委員ニ付託ヲセラレタイト云フコトヲ提出イタシマス、其理由ハ此建議案ニモ詳カニアリ、且ツ唯今提出者ノ黒田侯爵カラ詳カニ説明ニナリマシテ、此事柄ニ付イテ勿論疑ヒハゴザイマセヌガ、尙ホ之ヲ慎重ニ議スル爲ニ委員付託ニナリタイト云フ積リデアリ

マス、ソレハ何故カト申シマスルニ過日ノ豫算委員會ニ於テモ此問題ガ質問ニ上ボリマシタ、然ルニ政府ハナカク、此財政ノ都合上、容易ニ此基金ヲ從前ノ如クニ繰戻シマスルコトハ難イヤウナ答辯デアリマシタヤウナ次第デアリマスカラ、本院ニ於テ建議ヲ致スニハ尙ホ慎重ニソレ等ノコトモ調査ノ上デ建議ニナッタ方ガ宜シカラウト考ヘマスルカラ、委員付託ノ動議ヲ提出イタシマス

○伊澤修二君 小澤男爵ニ賛成イタシマスガ……

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 伊澤君ノ發言中デアリマス

○伊澤修二君 唯今、數ヲ小澤男爵ハ仰シヤイマシタカ、仰シヤイマセヌカ、若シ數ヲ仰シヤイマセヌコトナラバ、私ハ十八名ノ委員ニ付託セラレテ慎重ニ之ヲ調査セムコトヲ希望イタシマス

○子爵谷干城君 委員付託ニ賛成デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 小澤男爵ニ伺ヒマスガ、小澤男爵ノ御説デハ議長指名ノ委員九名ト議長ハ伺ッタヤウニ思ヒマスガ、サウ心得テ宜シウゴザイマスカ

○男爵小澤武雄君 左様デゴザイマス

○大谷嘉兵衛君 動議ニ賛成イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 大谷君、議長ニ聴エマセヌ、モウ一遍……

○大谷嘉兵衛君 小澤男爵ノ特別委員ニ付託シテ之ヲ調査セシムルト云フノ動議ニ賛成イタシマス

○伯爵柳原義光君 十八名ノ委員說ニ賛成ヲ表シマス

○議長(公爵徳川家達君) 小澤男爵ノ動議ハ議長指名ノ九名ノ特別委員ニ付託スル、伊澤修二君ノ動議ハ十八名ノ委員ニ付託スル、ドチラモ賛成ガアリマシタカラ採決イタシマス、小澤男爵ノ九名ノ委員說ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七、利根川水害豫防工事速成ニ關スル

請願、議事日程第八、宮津福知山間鐵道急設ノ請願會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

意見書案

利根川水害豫防工事速成ニ關スル件

茨城縣稻敷郡阿波村平民農竿代文藏外六十四名呈出

同縣同郡舟島村平民農平岡藏之助外六百七十五名呈出(十二通)

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ頻年利根川ノ水災ヲ被リ殊ニ明治三十九年及四十年ノ如キハ堤防ノ決潰ニ因リ濁流氾濫シテ震ケ浦ノ沿岸ニ及ヒ最甚シキ被害ヲ見ルニ至レリ而シテ今ニシテ河身ノ浚渫工事ヲ完成シ災害ノ源ヲ絶ツニアラスムハ沿岸ノ住民ハ流離顛沛シ竟ニ救フヘカラサルノ悲境ニ陥ルニ至ルヘキヲ以テ此ノ水害ノ區域ヲ查竊シ利根川河身改修工事ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

宮津福知山間鐵道急設ノ件

京都府與謝郡宮津町平民醫師中川雄齋外七百一十一名呈出

右ノ請願ハ宮津港ハ十餘年前既ニ特別輸出港トシテ指定セラレタルモ鐵道ノ敷設之ナキカ爲水陸ノ連絡ヲ闕キ實際上商港タルノ利益ヲ世人ニ與フルコト能ハス然レトモ一度之カ敷設ヲ見ルニ至ラハ南北海岸ヲ貫通シ京阪地方トノ交通ヲ開キ延イテ日本海ノ諸港及沿海洲滿韓地方ト通商貿易ヲ計ルノ便ヲ與フルニ至ルヲ以テ同港ヲ純然タル貿易港トセラレ且速ニ宮津福知山間又ハ宮津上川口村間ノ鐵道ヲ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○議長(公爵德川家達君) 請願委員長ノ報告通りテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、利根川水害豫防工事速成ニ關スル請願、會議

意見書案

利根川水害豫防工事速成ニ關スル件

茨城縣稻敷郡八原村長大橋甚三郎外三十五名呈出

右ノ請願ハ茨城縣新治稻敷行方鹿島ノ四郡ハ明治二十九年以來屢利根川ノ洪水ニ苦シミ殊ニ客年八月ノ水害ハ其ノ慘禍實ニ名狀スヘカラサルモノアリ而シテ縣ノ當局者ハ巨額ノ費用ヲ投シ國庫ノ補助ヲ得テ之カ復舊工事ヲ施セリト雖固ヨリ應急ノ手段タルニ止マリ災害ノ根治ハ到底河身ノ改修ニ須タサルヲ得ス然ルニ既往ノ如キ長期ノ計畫ヲ以テセムカ工事未タ完成ヲ告ケサルニ先チ水災若ニ臻リテ民力爲ニ涸渴シ利根川ノ沿岸終ニ人煙ヲ見サルニ至ルヘキヲ以テ千葉縣佐原町以西茨城縣取手町ニ至ル第二期改修工事ノ豫定期間ヲ短縮シ明治四十六年迄ニ之ヲ完成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○議長(公爵德川家達君) 是モ請願委員長ノ報告通りテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十、宮津商港ニ達スル鐵道延長線急設ノ請願、會議

意見書案

宮津商港ニ達スル鐵道延長線急設ノ件

京都府與謝郡宮津町士族公吏山本淺太郎外四百名呈出

右ノ請願ハ宮津港ハ天然ノ良港ニシテ日本海上重要ノ位置ヲ占ムト雖鐵道ノ連絡ヲ闕ケルカ爲商港タルノ實ヲ收ムルコト能ハス然ルニ一度之カ敷設ヲ見ルニ至ラムカ當ニ京阪諸地方ト運輸交通ノ便ヲ開クノ利アルノミナラス滿韓諸港浦鹽斯德トノ通商貿易ヲ容易ナラシメ國富ノ増進ニ資スルコト多大ナルヲ以テ福知山又ハ舞鶴ヨリ同港ニ達スル鐵道ヲ急設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 是モ請願委員長ノ報告通リデ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵曾我祐準君 本員ハ本日ノ議事日程第二ニ上ボリマシタ帝國鐵道會計法案ノ委員ノ員數ニ付イテ動議ヲ提出イタシマス、此委員選定ハ過日ノ決議ニ依ッテ議長ニ御委託セラレタノハ申スマデモナイコトデアリマスガ、是ハ重大ナ問題ノヤウニ聞キマスニ依ッテ十五名ノ委員ニ付託セラレムコトヲ請ヒマス、此動議ヲ提出イタシマス

〔贊成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ帝國鐵道會計法案ノ特別委員ハ議長指名ノ十五名ニシタイト云フ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔太田書記官長朗讀〕

帝國鐵道會計法案特別委員

伯爵松本 宗隆君	子爵井上 勝君	子爵曾我 祐準君
子爵三島 彌太郎君	子爵牧野 忠篤君	黑岡 帶刀君
男爵中川 興長君	男爵田 健治郎君	男爵吉川 重吉君
男爵本多 政以君	富田 鐵之助君	古市 公威君
石 黑 五十二君	平山 靖彦君	桑田 熊藏君
渡其瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案特別委員		
子爵高野 宗順君	子爵本莊 宗義君	子爵細川 立興君
男爵野村 素介君	男爵小野 尊光君	男爵二條 正麿君
西村 亮吉君	山田 爲暄君	久保市三郎君
建物保護ニ關スル法律案特別委員		
伯爵廣澤 金次郎君	子爵新莊 直陳君	子爵入江 爲守君
男爵青山 元君	男爵藤大路 親春君	富井 政章君
石 渡 敏一君	高木 豐三君	木村 誓太郎君
教育基金ニ關スル建議案特別委員		
侯爵細川 護成君	子爵堀河 護麿君	男爵船 越 衛君
男爵園田 安賢君	男爵久保田 讓君	千頭 清臣君
伊 澤 修二君	加藤 宇兵衛君	鳥越 貞敏君

○議長(公爵德川家達君) 次ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是デ散會イタシマス

午前十一時十二分散會